

---

# 彼女が僕にくれたもの

大吉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

彼女が僕にくれたもの

### 【Nコード】

N1398D

### 【作者名】

大吉

### 【あらすじ】

どこにでもいる普通の高校生の恋愛物語。そして思い出と現実に戸惑いながらも強くあろうとする。失ってしまったものと手に入れたもの。それは…

雪の夜だった。とても寒い12月の夜だった。俺はいつものようにバイトがおわり、店の外に出た。携帯の電源を入れると彼女からのメールが届いていた。『バイトお疲れさま!! 今日会えるのを楽しみにしてます!! 後でね!!』思わず笑顔がこぼれた。彼女とは高校1年の頃から付き合っている。何度もケンカしたが今ではなくてはならない存在だ。

俺はあわてて地下鉄に乗り電車の駅まで行つた。待ち合わせのベンチへ行つたが、そこに彼女の姿は無かつた。『遅刻かよッ!!』などと思いながら俺はベンチに腰をかけ彼女を待つ事にした。

それからどれくらいたつたのか、彼女は一向に現れなかつた。ちょっと心配になつた俺は彼女にメールを送つた。『どうしたの?? 俺はもう着いてるよ!!』それからしばらく待つたが彼女からの返事は来なかつた。何度電話しても彼女は電話に出なかつた。それからどれくらいたつたのか、突然俺の電話がなつた。その電話は彼女の従兄弟の母からだつた。隆君?? 今ね亜紀子が事故にあつてxx病院なの!! 俺はいてもたつてもいられず彼女の元へと走つた。無我夢中だつた。無事を祈つた。どのくらい走つたのか、俺は病院に着いた。急患用の入り口から病院に入つた。亜紀子は?? 亜紀子は大丈夫なんですか?? 看護婦さんは真剣な顔で『落ち着いてください!! 今先生が来ますから』といった。俺はだまつて看護婦さんについていった。病室の前には彼女のおばさんが肩を落として座っていた。かける言葉が見つからなかつた俺は軽く頭を下げおばさんの隣に座つた。おばさんの話しによると俺との待ち合わせのために、街に向かう途中横断歩道で雪ですべり止まれなかつた車にひかれたそうだった。彼女の容態は俺の想像以上に悪く今夜が峠だそうだった。俺は信じられなかつた。ついさっきまで元気で、俺にメールをくれて、笑っていて、いつもとなりにおいてくれた彼女が今すごい遠い所に

いこうとしている。そう考えただけでとても怖くなった。震える膝を必死で押さえ込み、こぼれそうになる涙を必死でこらえた。

次の日、朝日が昇る頃に彼女は息をひきとった。信じられなかった。俺の目の前でベッドに横になり、動かない彼女はまだ温かった。今にも起き上がりいつものように『おはよう』って。彼女の手を握るとまだ温かった。動かない彼女に何度声をかけても返事は帰ってこなかった。ただ俺は彼女の隣に座っていた。

病室から出ると彼女のおばさんが『隆君によ』と、俺に小さな封筒をくれた。どうやら彼女の鞆に入っていた物らしい。病院の庭にあるベンチに俺は腰をかけて。封筒をあけた。

『隆へ』

今日はAから初めてのがみだよッ！！隆とはもう4年間も一緒にいるんだねッ！初めて隆を見た時、この人だなんて思ったんだよッ！！本当に毎日毎日楽しくて隆との時間は私にとって、宝物だよッ！！なんか恥ずかしいからこの辺でやめとくねッ！本当に一緒にいてくれてありがとう！そしてこれからもヨロシクお願いします！！  
P・S・クリスマス楽しみだね！

亜紀子

涙があふれた。彼女の丸文字はなんだか優しく彼女本人のようだった。涙がこぼれないように、上を見上げると空は青くとてもきれいな朝だった。小鳥のさえずりがこだましていた。俺はただ泣いていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1398d/>

---

彼女が僕にくれたもの

2011年1月19日12時21分発行